
[成果情報名] 「母の日」向けのオルフィウム鉢物栽培技術の開発

[要約] オルフィウムの小型鉢物生産では、露地で養成した苗を用いて、1月上旬から夜温10℃に加温し同時に電照を行うことで、5月上旬に出荷できる。

[キーワード] オルフィウム、鉢物、加温、電照

[担当部署] 花き部・花き栽培チーム

[連絡先] 092-922-4958

[対象作物] 花き・花木 [専門項目] 栽培 [成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

オルフィウム (*Orphium frutescens*) は、南アフリカ原産の耐寒性花木で、小型鉢物の素材として有用な草姿、花容を備えている (図1)。さらに露地で苗養成が可能であり、出荷までの栽培期間が短いことから、省力的な鉢物生産に利用可能である。また、最近の鉢物消費は「母の日」のギフト需要が拡大しており、これらに対応した新規鉢物が求められている。

そこで、「母の日」の新しい鉢物商品として、オルフィウムの小型鉢物生産のための新しい栽培技術を開発する。

[成果の内容・特徴]

1．オルフィウムの鉢物栽培では、夜温10℃に加温し、同時に長日処理 (暗期中断 4時間 22:00~2:00) を実施すると開花が促進される (表1)。

2．加温と長日処理の開始時期は、1月上旬が促成効果が高く5月上旬に開花する (表2、一部データ略)。

3．「母の日」需要に対応した5月上旬出荷は、前年の9月にさし芽した苗を10月に定植後、11月に摘心し、露地で養成した後に1月上旬から施設内で加温と長日処理を開始するとよい (図2)。

[成果の活用面・留意点]

1．12cm以下の小鉢で栽培する場合、鉢当たりの苗の定植本数は3~4株でよい。

2．5月上旬に開花させるためには、最終摘心時期を11月とする必要がある。

3．草姿の改善のために、矮化剤の使用方法について検討する必要がある。

[具体的データ]

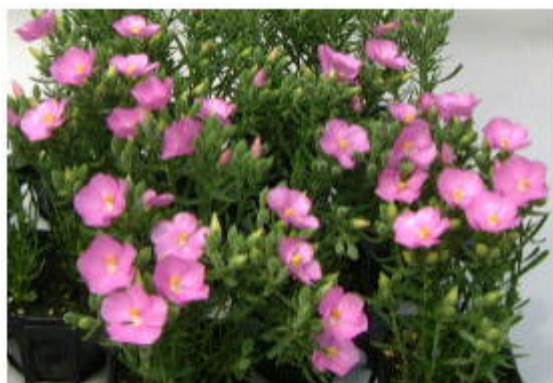


図1 オルフィウムの開花の様子

表1 栽培夜温と日長の影響 (平成14年)

処理区分		開花日 月/日	最大側枝	
栽培夜温	日長		側枝長 cm	節数
15	自然	6/9	34	22
10	"	5/28	33	15
7	"	5/28	27	13
無加温	"	5/28	21	10
15	長日	5/24	37	22
10	"	5/21	36	15
7	"	5/24	29	14
無加温	"	5/28	22	11

注1. さし芽:平成14年9月17日、定植:10月11日、25Lの栽培箱に8株植え

2. 栽培場所 :12月5日までは無加温ガラス室、12月6日より処理開始

3. 長日処理方法 :暗期中断 4時間(22:00 ~ 2:00)

表2 10 加温と長日処理開始時期の影響 (平成15年)

処理区分		開花日 月/日	最大側枝		小花数 個
開始時期 月/日	日長		側枝長 cm	節数	
1/10	長日	5/9	26	10	30
2/10	"	5/15	19	8	29
3/10	"	5/24	19	9	28
無加温・自然日長(対照)		5/27	18	9	25

注1. さし芽:平成15年9月18日、定植:10月14日、10.5cm鉢に3株植え

2. 栽培場所 :平成16年1月9日までは露地、1月10日以降加温開始までは無加温ガラス室

3. 長日処理方法 :暗期中断 4時間(22:00 ~ 2:00)

月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月
5月上旬(母の日)出し栽培	露地		-----10		加温(施設内)		----		
記号:	挿し芽	定植	×摘心	電照(暗期中断4時間)開始	電照終了	開花期			

図2 オルフィウムの「母の日」出荷の作型

注) 10月に定植後は露地で、1月上旬以降は施設内で栽培

[その他]

研究課題名: 新規鉢物及び新しい商品形態の鉢物・苗物生産技術確立

予算区分: 経常

研究期間: 平成15年度(平成14~15年)

研究担当者: 坂井康弘、國武利浩、松野孝敏、黒柳直彦、巢山拓郎